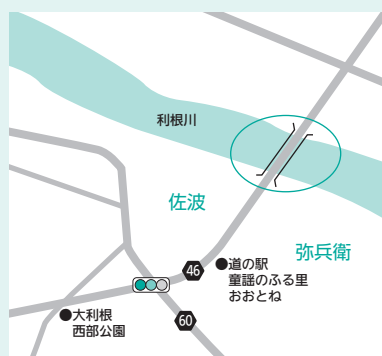


「ご存じですか！文化財」 埼玉大橋

94



問合せ
生涯学習課
(0480)62・1223



佐波から麦倉

市を東西に横断する利根川に、市内唯一の橋として存在するのが、埼玉大橋です。

埼玉大橋は、昭和45年10月12日に着工し、同47年10月31日に開通した県内で初めての有料道路でした。総事業費16億3千4百万円、橋梁延長763m、橋の構造形式は、経済性、美観、耐震性などを検討した構造となっています。

江戸時代のはじめの元和7年(1621年)に関東郡代・伊奈忠治により、佐波村地先から東へ8km余りの新川が開削された結果、川辺領は北と南に分されます。北は古河川辺領

と言われた現在の北川辺地域南は向川辺領と言われた大利根地域です。その後、川幅が広げられ、往来も難しくなり、渡し船が唯一の交通機関となります。また、架橋以前の自動車による通行は、下流にある利根川橋または、上流側にある昭和橋のいずれかまで迂回しなければならず、架橋は地域全体の長年の夢でした。

加須市郷土かるたに「街と街つなぐ架け橋 埼玉大橋」と読み札があるとおり、埼玉大橋は利便性だけでなく、地域をつなぐ建造物として次の世代に受け継いでいきたいものです。



埼玉大橋